



株式会社 ヨコチュー

思いを“コメた”ギフト商品で 日本の米食文化をもっと身近なものに

豊かな自然と木曾三川の清流が育む岐阜県の米「ハツシモ」を中心に、米の卸売業をして60余年の当社は、私で3代目。プロとして米の目利きを行い、生産者の思いやおいしさを消費者に伝えています。近年、パンや麺類など多彩な主食食材があり、米を食べる機会が減少する中、米の良さを広く発信するためには、米の価値を表現した販売方法が必要です。そこで本事業では、ギフト・景品業界へ参入し、お米を食べる楽しさを提案。贈る人の思いを“コメた”商品を通じて、米をもっと気軽に食べてもらい、日本の大切なご飯文化を広めたいです。

代表取締役 横山 裕正



設備投資 事業計画名 真空パックの自動化・カスタマイズ化による迅速対応とバリエーション展開

課題	取組	成果
<ul style="list-style-type: none"> ■ 主食需要の分散による米離れ ■ 市場価格に左右されない商品づくり ■ 未開拓分野への米の販売促進 ■ 真空パック商品の効率的な量産化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小袋用全自動ガス充填包装機の導入 ■ 多様な形の袋を用いた真空パック試験 ■ 量産に向けた試作品製造 ■ ニーズに合わせたバリエーションの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高品質化・長期保存の実現に成功 ■ 手作業に比べ処理能力が7.5倍に向上 ■ ギフト・ノベルティ業界へ参入 ■ オリジナル商品「一人米!」を開発

取組への経緯

従来、量販店や飲食店に米を販売してきた米卸業は、その年の生産状況や季節によって米の市場価格が変わり、経営が左右されるという課題があった。そこで市場価格の影響を受けない商品づくりの必要性を感じ、平成24年に米を四角い形に真空個包装してギフトや記念品として販売する「CUBE米」を開発した。この事業をさらに拡大するため、効率的な高品質な量産を可能にする真空パックの自動化を図り、よりバリエーション豊かな商品展開を目指した。



導入した小袋用全自動ガス充填包装機 HP-500

事業概要

小袋に米を真空パックするため、小袋用全自動ガス充填包装機を導入。これまで手作業で生産してきたキューブ型に加え、手作業では困難だった平袋に加え、2種類について袋のサイズや容量の異なるサンプルを作成し、機械の操作性と真空パックした米の品質を検証した。また、今回の設備導入によって試作考案できる真空パック製品については、社内で想定できる販売先を検討。企業のノベルティや土産物、防災、アウトドア商品など、新たな分野に向けた販売体制を整備した。



手作業では困難だった平袋の真空米も、機械化により幅・厚み共に均一な真空パックが実現

取組成果活用状況

真空パックを自動化できる設備を導入したことで、従来は既存の機械と手作業で1時間に33個を製造していたキューブ型の製品について、1時間に約250個と7.5倍に処理能力が向上した。

また平袋は、これまで手作業では均一な厚みで成形することが困難だったが、機械化によりバイブレーションを加えた成形で均一な真空パック化が可能になり、1個あたり約18秒で作成できるようになった。平袋を採用可能となったことで、袋のサイズを変えて商品バリエーションを増やすことができ、試作では平袋の真空米150gに当社の宣伝をデザインして配布。平袋は持ち帰りやすく、デザイン可能な表面積も広いいため宣伝内容が印象に残りやすいことから、オリジナルデザインで作る米のノベルティ「コメーシャル」というブランド化につながっている。

さらに先の東日本大震災をきっかけに、防災やアウトドア関連の商品づくりに取り組み、チャック付きの耐熱性袋を用いて、袋のまま沸騰したお湯に入れることで1人前のご飯が炊ける「一人米!」という新商品を開発。展示会出展などを通じて広くPRを行い、好評の声を得ている。



東日本大震災で必要性を感じ、長期保存ができて非常食になる「一人米!」を開発



袋ごと煮る必要があるため、耐熱性のある資材選びに試行錯誤を繰り返した

COMPANY INFORMATION

株式会社 ヨコチュー [飲食料品卸売業]

〒501-6271 羽島市小籠町東小籠3208番地
TEL.058-392-4661 FAX.058-392-8603

動画を
チェック



- 代表者/代表取締役 横山 裕正
- 設立/昭和25年12月
- 資本金/1,000万円
- 従業員数/15人
- 事業内容/米穀類小売業
- HP/http://www.yokochu.co.jp/
- E-mail/info@yokochu.co.jp